

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動き 0歳児から5歳児
～環境の変化に応じた投動作と移動運動の協応及び空間認知能力の向上を図る活動～

<テーマの設定理由>

子どもたちは、投げる・拾う・追いかけるといった全身を使った遊びを好み、動きのある活動に意欲的に取り組んでいる。特に保育者や友だちの動きに影響を受けながら、自分の身体の使い方を工夫する姿が日常的に見られる。
とげとげのついたブロックを使った玉入れ遊びを通して、子どもたちが状況の変化に応じてどのように身体を動かし、遊びを楽しむのかを捉えたいと考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

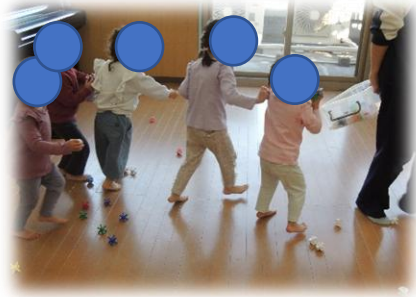
- ・玩具の紹介、自由遊び等でふれあう
土曜日保育や混合保育の日に定期的開催、主に6月から12月
- ・主活動で「動き」に合わせた遊びの展開
- ・遊びの振り返り
- ・クラス会議での振り返り

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

環境・素材の設定

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
とげとげのついたブロックと、ブロックを入れるためのかごを用意した。保育室内を広く使えるようにし、保育者がかごを持って移動したり、高さを変えたりできる環境を整えた。
- ・活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等
子どもたちはブロックを手に持ち、かごをめがけて投げ入れる遊びを楽しんだ。かごの位置が変わると、その方向へ歩いたり走ったりしながら追いかけ、タイミングを見て腕を振って投げる姿が見られた。
保育者がかごの高さを変えると、背伸びをしたり、ジャンプをしたりと、自然に動きが大きくなっていった。また、かごが動くことで子ども同士と一緒に追いかける場面も生まれ、笑顔や歓声が広がった。
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり
「とどくかな」「まってー！」と声を出しながら身体を動かし、投げ入ると「はいっ た！」と喜ぶ姿が見られた。友だちの様子を見てまねをしたり、一緒に追いかけたりする中で、遊びへの意欲がさらに高まっていった。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後、クラス会議および職員会議において本活動を振り返った。
とげとげのついたブロックを使った玉入れ遊びでは、かごの高さや位置を変えることで、子どもたち一人ひとりの身体の使い方や参加の仕方に違いが見られたことが共有された。投げる動作が難しい子どもも、かごを追いかけたり、ブロックを捨ったりする中で主体的に活動に参加しており、無理なく全員が楽しめる遊びになっていたという意見が出た。また、保育者が動くことで子どもたちの視線や意識が自然と集まり、遊びへの意欲や集中が高まっていた点も確認された。
今後は、クラス会議で出た意見を踏まえ、子どもの発達段階に応じた環境設定や関わりを工夫しながら、子ども自身が動きを考え、試すことのできる活動へとつなげていく